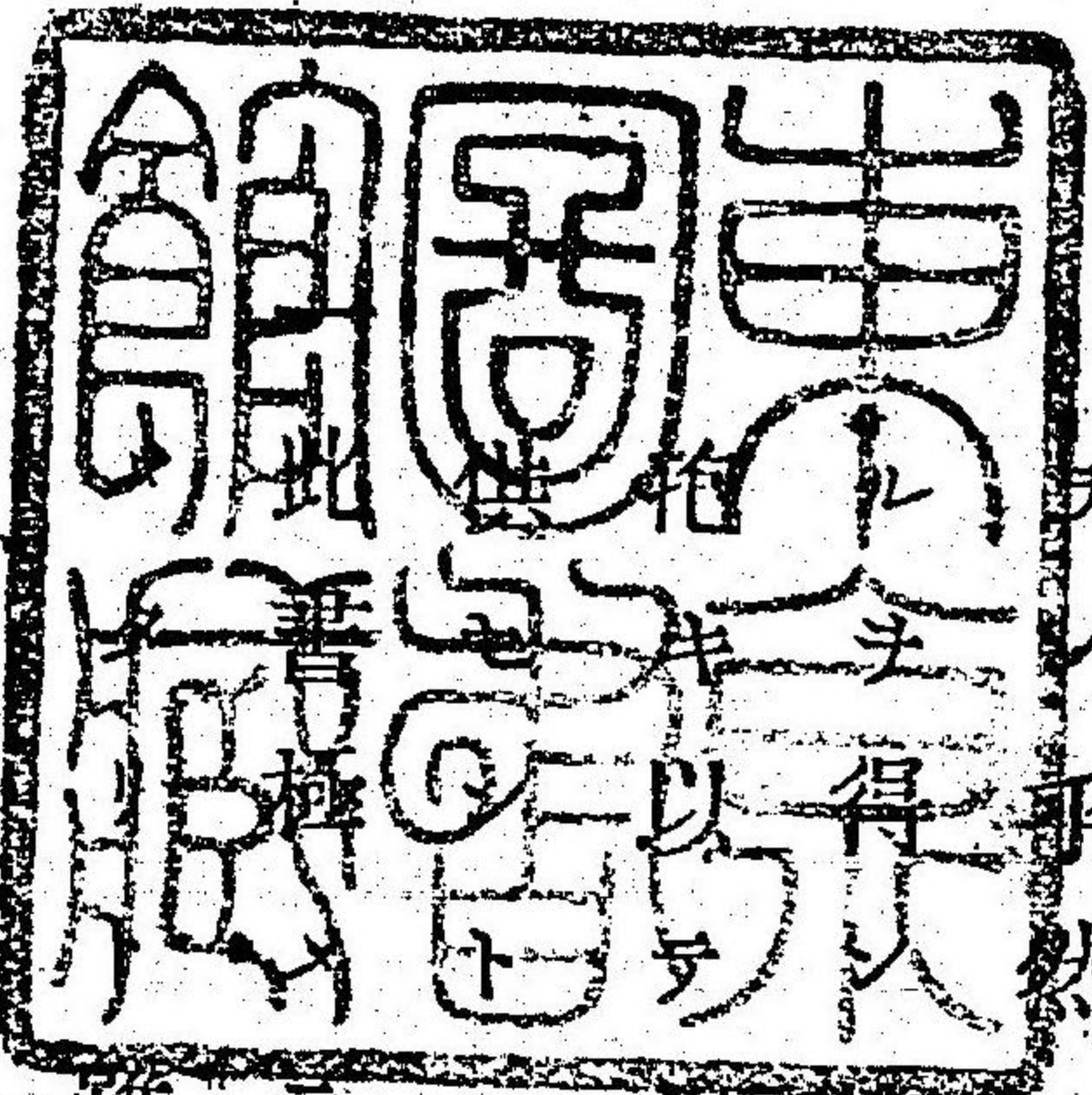


明治二十年六月二十一日内務省発行 4467

緒言

一 近頃結社盛ニ行ハレ株券之發行賣買從テ頻繁ナルヲ見認ム是レ蓋シ我邦強盛進歩ノ原因ナラシムルニ其規律ナクンハ會社何ゾ維持スル券何ゾ信用スルヲ得ン余ハ婆心ヲ茲ニ此書ヲ翻譯シ聊カ諸君ノ參考ニスルモノナリ

テ意譯法ノ精神ヲ失ハサランコトヲ勤テモ余ノ淺學或ハ魯魚ノ蔽ナキ能ハス大方諸君此正ヲ垂レハ幸孔々々



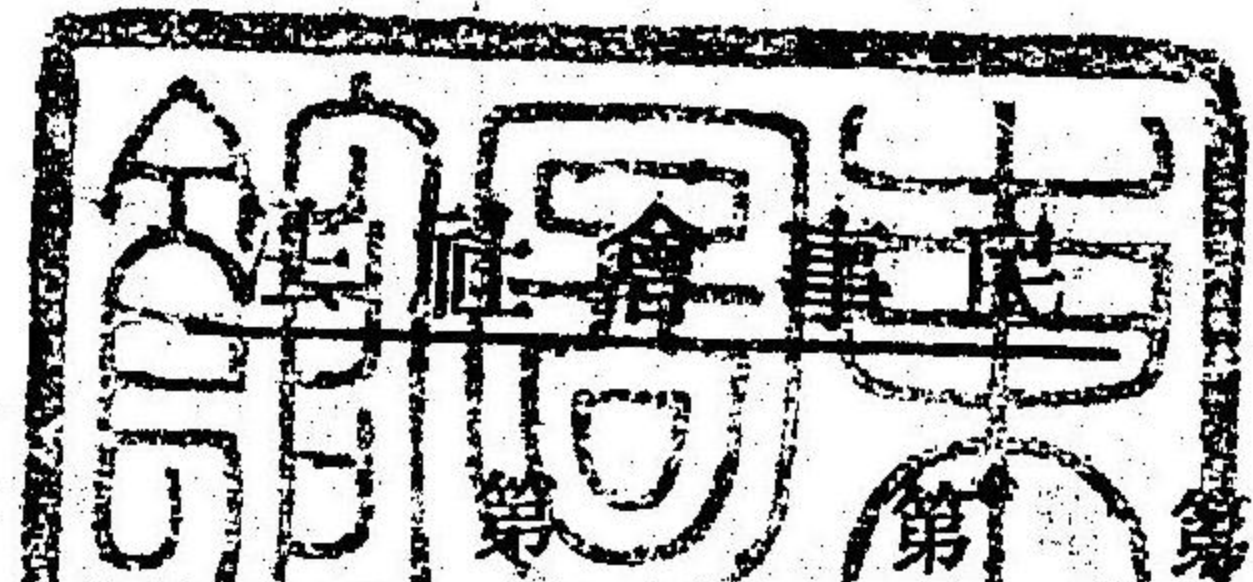
明治二十年五月

譯者 識

行現佛國諸種會社法大全

福永惟精 譯述

第一章 總則



第千八百三十五條 會社トハ二人以上ノ者カ利益ヲ分取スル目的ヲ以

テ物ヲ共ニスル契約ヲ云フ

第千八百三十六條 凡テ會社ハ適法ノ目的ヲ有シ及ヒ契約者共同ノ利

益ヲ爲メニ締結スルヲ要ス

第千八百三十七條 物品又ハ技藝ヲ會社ニ供出スルヲ要ス

第千八百三十八條 凡テ會社契約ハ其目的物ノ價額百五十フランク以

上ヲ時ニ認ムルヲ要ス

第千八百三十九條 會社契約ノ證書ニ反對スル事項及ヒ該證書記載外ノ事項

ヲ證明スルヲ要ス若シクハ該證書調製前調製ノ時又ハ調製後ニ在リタ

リト稱スル事項ヲ證明スル爲メニハ假令百五十フランク以下ノ金額

又ハ價額ナル時ト雖モ之ヲ許サス

第二章 會社ノ種類

(一) 第千八百三十五條 會社ハ之ヲ分テ總括的及ヒ特定のノ二種トナス

法社會事民

(二)

第一款 總括的會社

第一千八百三十六條 總括的會社ヲ區別シテ二種トナス凡テノ現有財產

ノ會社及ヒ利得總括ノ會社はレナリ  
第一千八百三十七條 凡テノ現有財產ノ會社トハ社員其現ニ所有スル一  
切ノ動產不動産ト及ヒ其レヨリ生スルヲ得ヘキ利得トヲ共通スル  
會社ヲ云フ

此會社ハ又前記以外ノ利得ヲモ共通トナスヲ得但シ遺物相續生存  
間ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ニ因テ社員ノ得ヘキ財產ハ其收益ニ限リ之  
ヲ社中ノ共通トナスヲ得ヘシ此等ノ財產ノ所有權ヲ共通ト爲ント  
スル契約ハ之ヲ禁止ス但シ夫婦間ニ於テ法規ニ從フ場合ニ於テハ此  
限リニアラス

第一千八百三十八條 利得總括ノ會社ハ會社ノ繼續中何如ナル名義タル  
ヲ問ハス社員カ技藝ニ因テ取得スル物ヲ包含ス結約ノ時各社員ノ所  
有スル動產モ亦其中ニ含入ス然レモ各自所有ニ屬スル不動産ハ其収  
益ニ限リ其中ニ含入ス

第一千八百三十九條 單ニ總括的會社ヲ締結シ別段ノ説明ナキ時ハ利得  
總括ノ會社ナリトス

法社會事民

(三)

第一千八百四十條 總括的會社ハ何レノ種類ニ屬スルヲ問ハズ相互ニ贈  
遺又ハ收受スルノ能力ヲ有シ及ヒ他人ヲ排斥シテ自ラ利得スルヲ  
禁止セラレサル者ノ間ニアラサレハ成立スルヲ得ス

第二款 特定の會社

第一千八百四十一條 特定の會社トハ或ル確定物件又ハ其使用又ハ其レ  
ヨリ收取スヘキ業實ノミニ係ル會社ヲ云フ

第一千八百四十二條 指定セラレタル一ノ起業ノ爲メ又ハ或ル職業ヲ營  
ム爲メニ數人結社スル契約モ亦特定の會社ナリトス

第三章 社員相互間及ヒ社外人ニ對スル義務

第一款 社員相互間ノ義務

第一千八百四十三條 會社ハ他ノ時期ヲ指定セサル時ハ契約ノ同時ニ開  
始ス

第一千八百四十四條 若シ會社存續期限ニ付キ約束ナキ時ハ社員ノ生存  
間結約シタル者ト見做ス但シ此場合ニ於テハ第一千八百六十九條ニ記  
載スル變例ヲ適用スヘキ者トス若シ有期事業ニ係ル時ハ其事業ノ繼  
續スル時間中結約シタル者ト見做ス

第一千八百四十五條 各社員ハ會社ニ對シテ供出スルヲ約諾シタル凡

法社會事民

テノ物ニ付キ負債主ナリトス  
 其供出物確定物件ニ係ル場合ニ於テ會社該物件ヲ他人ヨリ奪取セラ  
 レタルハ社員ハ賣主ノ買主ニ對シテ擔保者タルト同一ノ方法ニ從  
 ヒ會社ニ對シテ擔保者ナリトス  
 第千八百四十六條 會社ニ金額ヲ供出スヘクシテ供出セサリシ社員ハ  
 請求ナクシテ當然該金額ヲ拂入ルヘキ日ヨリ起算シテ之ニ對スル利  
 息ノ負債主トナルヘシ  
 社員ノ會社ノ金庫ヨリ取出シタル金額ニ付テハ自己ノ利益ノ爲メニ  
 該金額ヲ引出シタル日ヨリ起算シ前同條其利息ノ負債主ナリトス  
 何レノ場合ニ於テモ損害賠償ノ妨ケトナルヲナシ  
 第千八百四十七條 自己ノ技藝ヲ會社ニ供出スルヲ約諾シタル社員  
 ハ自ラ該會社ノ目的タル産業ヲ營ミテ得タル總テノ利得ヲ會社ニ計  
 算スルヲ要ス  
 第千八百四十八條 一社員自ラ或人ニ對シテ金員ノ債主トナリ其弁濟  
 ヲ請求シ得ルニ當リテ該負債主ハ會社ニ對シテモ亦金額ヲ負債シ且  
 ヲ其弁濟ノ期限ニ至リタル場合ニ於テ該社員ノ其負債主ヨリ受領シ  
 タル金額ハ假令其全部ヲ該社員自己ノ貸金ニ充ツル旨ヲ受領書ニ記

法社會事民

載スルト雖モ右ニ拘ラズ會社ト社員トノ三個ノ貸金額ノ割合ニ從ヒ  
 之ヲ配充スルヲ要ス但シ金額ノ全部ヲ會社ノ貸金ノミニ充ツル旨ヲ  
 受領書ニ明記セシキハ該約束ヲ執行スヘキモノトス  
 第千八百四十九條 一社員共同債主權ニ付自己得分ノ全部ヲ受領シ而  
 シテ負債主爾後無資力トナリタル時ハ該社員ハ自己得分ノ方へ受領  
 スル旨ヲ受領書ニ特記スルニ拘ハラズ其受領セシモノヲ共同財産ノ  
 合部中ニ還付セサル可ラス  
 第千八百五十條 各社員ハ自己ノ過失ニ因テ會社ニ生セシメタル損害  
 ヲ會社ニ對シテ負擔セサル可ラス他ノ事業ニ於テ自己ノ技藝ニ因テ  
 會社ニ得セシメタル利益ヲ以テ該損害ト相殺スルヲ得ス  
 第千八百五十一條 収益ノミヲ會社ニ供出シタル物件ヲ使用ニ因テ消  
 耗セサル確定物件ニ係ル時ハ該物件ノ毀損ハ其所有者タル社員ノ擔  
 當ニ歸スヘキモノトス  
 該物件使用ニ因テ消耗スヘキ物ニ屬スル時又ハ保存ニ因テ損壞スヘ  
 キ物ニ係ル時又ハ賣却スヘキ物ニ係ル時又ハ目錄ニ評價ヲ記載シテ  
 會社ニ供出シタル時以上ノ場合ニ於テハ該物件ノ毀損ハ會社ノ擔當  
 ニ歸スヘシ

(五)

法 社 會 事 民

其物件ニ評價ヲ付シタル時ハ社員ハ評價ノ金額ノ外回収スルヲ得ズ  
第千八百五十二條 社員ハ會社ノ爲メニ仕拂ヒタル金額ニ付キ會社ニ  
對シテ訴權ヲ有スルノミナラス尙ホ善意ヲ以テ會社ノ事業ノ爲メニ  
約諾シタル義務及ヒ會社ノ事務ヲ管理スルニ當リテ附着スル危險ニ  
付テモ亦會社ニ對シテ訴權ヲ有ス

第千八百五十三條 會社証書ニ於テ利益又ハ損失ニ關スル各社員ノ分  
前ヲ定メサル時ハ各自ノ分前ハ其會社ノ資本中へ供出セシ割合ニ准  
スヘキモノトス  
單ニ技藝ノミヲ供出スル社員ノ利益又ハ損失ノ分前ニ付テハ該社員  
ノ供出ハ最モ少量ノ供出ナシタル社員ト同一ナリト見做シテ之ヲ  
定ム

第千八百五十四條 社員中ニ於テ各自分前ノ規定ヲ社員中ノ一人又ハ  
社外人ノ裁定ニ任カスヘキ旨ヲ約束セシキハ此規定ノ不公平ナルコ  
ト明白ナルニアラサレハ之ヲ訟撃スルコトヲ得ス  
該規定ニ因テ損失ヲ受タリト主張スル社員該規定ヲ知リタル時ヨリ  
三月以上ヲ經過タシル時又ハ該社員自ラ該規定ノ執行ヲ始メタル時  
ハ此件ニ付キ何等ノ申立ヲナスコトヲ許サス

第千八百五十五條 社員ノ一人ニ利益ノ全部ヲ附與スル約束ハ無効ナ  
リトス

社員中ノ一人又ハ數人ヨリ會社ノ資本中ニ供出シタル金額又ハ物件  
ヲシテ全ク損失ノ擔當ヲ免レシムル約束モ同様ナリトス  
第千八百五十六條 會社契約ノ別段ノ約款ニ因リ管理ヲ任セラレタル  
社員ハ詐僞ノ所爲ナキ以上ハ他ノ社員ノ故障ニ拘ハラス其管理ニ屬  
スル諸般ノ所爲ヲ行フコトヲ得

其管理ノ權ハ會社ノ繼續スル間正當ノ原因ナクシテ廢止スルコトヲ得  
ス但シ會社契約以後ニ成立シタル證書ニ因テ管理權ヲ附與シタル時  
ハ單純ノ代理ノ如ク之ヲ廢止スルコトヲ得

第千八百五十七條 數人ノ社員ニ各自ノ職掌ヲ定ムルコトナク又互ニ協  
議ヲ經タル上ニアラサレハ事務ヲ執ルコトヲ得サル旨ヲ明定スルコト  
ク管理ヲ委任シタル時ハ各自分立シテ管理ニ屬スル諸般ノ所爲ヲ行  
フコトヲ得

第千八百五十八條 各管理者ハ他ノ管理者ノ協議ヲ經タル上ニアラサ  
レハ何事ヲモナスコトヲ得サル約束アル時ハ新ニ約束ナキ以上ハ他ノ  
管理人ニ於テ現ニ管理ノ所爲與ニルコト能ハサル事故アリト雖モ尙ホ

(七)

法 社 會 事 民

民法社會法

他ノ立合ナク一人ニテ事務ヲ執ルヲ得ス  
 第千八百五十九條 管理ノ方法ニ付キ別段ノ約束ナキ時ハ左ノ規則ニ從フヘシ  
 第一 社員ハ互ニ管理權ヲ附與シタルモノト見做ス○各社員ノ所爲ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得スト雖モ他ノ社員ニ對シテ有効ナリトス但シ其所爲ノ執行前ニ於テ他ノ社員ハ故障ヲナスノ權ヲ有ス  
 第二 各社員ハ慣習ニ因テ定メタル用法ニ從ヒ且ツ會社ノ利益ニ反對スルヲナク又他ノ社員ノ使用權ヲ妨害セサル限リハ會社ニ屬スル物件ヲ使用スルヲ得  
 第三 各社員ハ他ノ社員ヲシテ自己ト共ニ會社ノ物件ヲ保全スル爲メニ必要ノ費用ヲ出サシムル權アリ  
 第四 社員ノ一人ハ會社ノ利益ナリト確信スル時ト雖モ他ノ社員ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ會社ニ屬スル不動産ノ模様ヲ變換スルヲ得ス  
 第千八百六十條 管理者ニアラサル社員ハ會社ニ屬スル物件ハ動産ト雖モ之ヲ讓與シ又ハ抵當トナスヲ得ス  
 第千八百六十一條 各社員ハ自己ノ分前ニ付テ他ノ社員ヲ承諾スル



トナク自己ト社外人トノ間ニ組合ヲ締結スルヲ得然レモ各社員ハ管理權ヲ有スル者ト雖モ他ノ社員ノ承諾ヲ經スシテ社外人ヲ會社ニ加入セシムルヲ得ス

第二款 社外人ニ對スル社員ノ義務

第千八百六十二條 商事會社外ノ會社ニ於テハ社員ハ會社ノ負債ニ關シテ連帶ノ義務ヲ負擔スルヲナシ又社員ハ其所爲ニ因リ他ノ社員ヲシテ義務ヲ負擔セシムルヲ得ス但シ他ノ社員ヨリ該權利ヲ附與セラレタル時ハ此限リニアラス  
 第千八百六十三條 社員ハ其契約シタル權利者ニ對シテ各自平等ノ金額及ヒ分前ヲ負擔セサルヘカラス一社員ノ會社ニ於ケル分前更ニ少額ナル時ト雖モ會社證書ニ於テ特ニ該分前ノ割合ニ從ヒ該社員ノ負擔ヲ輕減セサリシ以上ハ亦同様ナリトス  
 第千六百六十四條 會社ノ爲メニ義務ヲ約諾スル旨ヲ約束スルモ該約束ハ單ニ約束シタル社員ノミヲ拘束シ他ノ社員ヲ拘束セス但シ他ノ社員ヨリ斯ル約束ヲナスノ權利ノ一社員ニ附與シタル時又ハ會社其約束ノ利益ヲ享受シタル時ハ此限リニアラス

第四章

會社ノ終了スル種々ノ方法

民法社會法

法社會事民

第一千八百六十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因テ終了ス  
 第一 會社ノ契約ニ於テ定メタル時間ノ盡了  
 第二 物件ノ消滅又ハ事業ノ竣成  
 第三 社員中一人ノ死去  
 第四 社員中一人ノ准死禁治產又ハ身代限  
 第五 社員中一人又ハ數人會社ヲ退去スルノ意思  
 第一千八百六十六條 期限ヲ定メタル會社ノ延期ハ會社契約ト同一ノ法  
 式ヲ具備シタル書面ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ証スルコトヲ得ス  
 第一千八百六十七條 社員ノ一人物件ノ所有權ヲ共通トナスコトヲ約諾シ  
 タル場合ニ於テハ該物件共通前ニ滅失スルキハ會社ハ社員一統ニ對  
 シテ解散スルモノトス  
 物件ノ収益ノミヲ共通トナシ其所有權社員ノ手ニ存スル時該物件滅  
 失スレハ如何ナル場合ヲ問ハス會社亦解散スルモノトス  
 然レモ既ニ物件ノ所有權會社ニ供出シタル場合ニ於テ該物件滅失  
 スルモ會社解散セザルモノトス  
 第一千八百六十八條 社員中一人死未遂場合ニ於テ會社ハ其相續人  
 ト共ニ存續シ及ハ生存社員間ニ存續スルモ其旨ヲ約束シタル時ハ該規

法社會事民

約ニ從フヲ要ス其會社生存社員間ニ存續スル場合ニ於テハ死者ノ相  
 續人ハ死去ノ時ニ於ケル會社ノ狀況ニ准シテ會社ヨリ分派ヲ受ルノ  
 權ヲ有シ爾後ノ權利ニ關シテハ死者ノ死去前ニナシタル事件ノ必然  
 ノ結果ニアラサレハ之ニ參與セサルモノトス  
 第一千八百六十九條 社員ノ一人ノ意思ニ因テ會社ヲ解散スルハ無期限  
 ノ會社ノミニ限ルモノトス而シテ此場合ノ解散ハ社員一統ニ會社ヲ  
 退去スル旨ヲ告知スルニ因テ生スルモノトス但シ該告知ハ善意ニ出  
 テ且ツ不都合ノ時機ニ於テセサルコトヲ要ス  
 第一千八百七十條 社員一統カ共同ニテ取得セント期シタル利益ヲ一人  
 ニテ取得センカ爲メニ退社ヲ申立ツルキハ其退社ノ申立ハ善意ニア  
 ラサルモノトス  
 事業未タ竣成ニ至ラスシテ會社ハ解散ヲ猶豫スヘキ必要アル時ニ於  
 テナシタル退社ノ申立ハ不都合ノ時機ニ於テスルモノトス  
 第一千八百七十一條 有期會社ノ約定ノ時期前ニ解散セシメントスル一  
 社員ノ要求ハ他ノ社員ニ於テ約束ノ履行ヲ缺キ又ハ持病ノ爲メ社務  
 ニ堪ハサル時又ハ其他類似ノ場合ニ於ケルカ如ク正當ノ理由アルニ  
 アラサレハ之ヲ許ス其理由ノ當否輕重ハ裁判官ノ判定ニ任ス

法社會事民

(二一)

第一千八百七十二條 遺物及分派其分派ノ法式及ヒ其分派ニ由テ共同相續人間ニ生スル義務ニ關スル規則ハ社員間ノ分派ニ適用スヘキモノトス

商事會社ニ關スル規定

第一千八百七十三條 本卷ノ規則ハ商業ノ法律及ヒ慣習ニ反セサル点ニ限り之ヲ商事會社ニ適用スルモノトス

商事會社ニ關スル規定  
第一千八百七十三條 本卷ノ規則ハ商業ノ法律及ヒ慣習ニ反セサル点ニ限り之ヲ商事會社ニ適用スルモノトス

法社會事商

(三一)

商法 第三章 會社

第一節 種類

第十八條 會社ノ契約ハ民法商事ニ特別ノ法律及ヒ双方ノ約束ヲ以テ之レヲ規定ス

第十九條 法律ハ三種ノ商業會社ヲ認定ス

合名會社

差金會社

無名會社

第二十條 合名會社ハ三人又ハ二人以上ノ者ノ取結フ處ニシテ社名ヲ用ヒテ商業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ヲ謂フ

第二十一條 社名中ニハ唯社員ノ姓名ニ限り之ヲ含入スルコトヲ得ベシ

第二十二條 會社定款中ニ記載セラルル合名社員ハ會社ノ取結ヒタル凡テノ義務ニ付連帶ノ責任ヲ有ス一人ノ社員於テ義務ヲ約諾シタルハ

第二十三條 差金會社ハ一人又數人ノ連帶責任アル社員ト一人又ハ數人ノ出金人トノ間ニ取結フモノトス出金人ハ亦差金人又ハ差金社員ト云フ

合名會社  
差金會社  
無名會社  
合名會社ハ三人又ハ二人以上ノ者ノ取結フ處ニシテ社名ヲ用ヒテ商業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ヲ謂フ



法 社 會 事 商

此會社ハ社名ヲ用ヒテ社務ヲ管理ス其社名中ニハ連帶責任アル一人  
 又ハ數人ノ社員ノ姓名ニ限リ之レヲ合入スルモ其數人ガ其ニ管理ヲ爲ス  
 第廿四條 數人ノ連帶合名社員アルモ其數人ガ其ニ管理ヲ爲ス又  
 ハ其中ノ一人又數人ガ代リテ管理ヲ爲ストナ問ハス此會社ハ此數人  
 ニ對シテハ合名會社ニシテ出金人ニ對シテハ差金會社ナリトス  
 第廿五條 差金社員ノ姓名ハ社名中ニ合入スルヲ得ス  
 第廿六條 差金社員ハ其會社ニ騰出シタル資本又ハ騰出ス可キ資本ノ  
 外損失ヲ担当スルヲナシ  
 第廿七條 差金社員ハ代理ノ名義ヲ用ユルモ尙ホ管理ヲ爲スト得ス  
 第廿八條 前條ニ記載シタル禁止ヲ犯シタル差金社員ハ其管理ノ所爲  
 ヨリ生シタル會社ノ負債及ヒ義務ニ付合名社員ト連帶ニテ義務ヲ負  
 担セサルベカラス且ツ右差金社員ハ其管理事件ノ數及ヒ輕重ニ從テ  
 會社ノ義務ノ全部又ハ一部ニ付連帶ノ義務ヲ負担セサルハカラス  
 意見ヲ述ヘ勸告ヲ爲シ又ハ檢閲監督ノ所爲ヲ行フノミニテハ差金社  
 員爲メニ責任ヲ負担スルヲナシトス  
 第廿九條 無名會社ハ社名ヲ有セス其社號ハ社員ノ姓名ヲ用ユルヲナ  
 シ

法 社 會 事 商

第三十條 無名會社ハ其營業ヲ以テ社務トス  
 第三十一條 無名會社ハ代理人ヲ以テ之レヲ管理ス代理人ノ任期ハ有  
 期ニシテ期限前解任スルヲ得ヘキモノトス  
 但シ之レヲ社員中ニ取ルモ社員外ニ取ルモ有給トスルモ無給トスル  
 モ可ナリ  
 第三十二條 支配人ハ委任セラレタル代理ノ履行ニ關スル外ニ責任ナ  
 キモノトス  
 支配人ハ其管理ノ故ヲ以テ會社ノ義務ニ關シ自身又ハ連帶ノ責任ヲ  
 負担セサルモノトス  
 第三十三條 社員ハ其會社ニ於テ有スル利益ノ額ノ外損害ヲ負担セザ  
 ルモノトス  
 第三十四條 無名會社ノ資本ハ之レヲ分チテ同額ノ株又ハ株片ト爲ス  
 第三十五條 株ハ無記名券狀ト爲ヌヲ得ベシ  
 此場合ニ於テ株ノ移轉ハ株券ノ引渡ヲ以テ完結ス可シ  
 第三十六條 株ノ所有權ハ會社ノ帳簿ニ登記シテ之レヲ証明スルヲ得  
 此場合ニ於テ株ノ移轉ハ引渡又旨ヲ帳簿ニ記載シ引渡人又ハ其代理

商 事 會 社 法

人之レニ署名スルヲ以テ完結スベシ  
 第三十七條 無名會社ハ救裁ヲ以テ之レヲ許可シ且ツ會社成立ノ證書ヲ認可スルニアラサレハ成立セス該認可ハ勅令ノ書式ニ從フテ與フ可キモノトス  
 第三十八條 差金會社ノ資本モ亦之レヲ分ツテ株ト爲スヲ得可シ但シ此會社ノ爲メニ定メラレタル規則ニ背クヲ得ズ  
 第三十九條 合名會社又ハ差金會社ハ公成證書又ハ私印證書ニ於テ之レヲ證明ス可シ私印證書ニ於テ之レヲ證明シタルハ民法第千三百二十五條ニ準從ス可シ  
 第四十條 無名會社ハ公成證書ヲ用ユルニアラサレハ之レヲ成立スルヲ得ス  
 第四十一條 會社成立ノ證書中ニ記載シタル事項ニ反對ノ事項ヲ證明シ又ハ記載外ノ事項ヲ證明セン爲メ若クハ證書調製前調製ノ時又ハ調製後規定セラレタル事項ヲ證明セン爲メ證人ヲ用ユルヲ得ス其金額百五十ヲラシク以下ノ事項ニ係ルハト雖モ亦同シ  
 第四十二條 合名會社及ヒ差金會社成立ノ證書調製後十五日間ニ於テ其拔書ヲ作ル之レヲ會社商店所在ノ郡ノ商事裁判所ノ書記局ニ納メ

商 事 會 社 法

其帳簿ニ登錄シ且ツ三月内ニ溜所ニ揭示スベシ  
 若シ會社數ヶノ商店ヲ數郡ニ有スルハ各郡ノ商事裁判所ニ拔書ヲ納メ之レヲ登錄シ及ヒ揭示ス可シ  
 合名會社及ヒ差金會社ニ於テハ會社成立ノ證書調製後十五日以内ニ於テ其拔書ヲ作り之レヲ新聞紙ニ掲載ス可シ商事裁判所ハ之レカ爲メ毎年一月上半ニ於テ其管轄内ノ首地又ハ首地アラサルハ最近ノ都府ニ於テ拔書ヲ掲載ス可キ一新聞紙又ハ數新聞紙ヲ指定シ且ツ拔書印刷ノ費用ヲ規定ス可シ  
 右新聞紙掲載ノハ該新聞紙一葉ニ印刷者ノ保證ヲ取り戸長ノ與印ヲ受ケ其日附後三ヶ月内ニ簿冊ニ記録シテ之レヲ證明ス可シ  
 以上ノ手續ヲ履行セサルハ會社ハ利害ヲ有スル者ニ對シテ無効ナリトス但社員ハ社外人ニ對シテ右手續ノ不履行ヲ主張スルヲ得ス  
 第四十三條 拔書ニハ左ノ件ヲ記載ス可シ  
 株主又ハ差金者ニアラサル社員氏名身分及ヒ住所  
 社名  
 會社ノ爲メ管理支配及ヒ署名スルヲ許スル社員  
 株主ハ差金ニ依リ拂入トスルハ可キ價額

法社會事商

會社ノ始マレハキ期日及ヒ終ル可キ期日  
 第四十四條 會社成立ノ證書ノ授書ハ其證書及正證書ナルルハ公證人  
 之レニ署名シ私印證書ナルルハ合名會社ニ於テハ社員一同之レニ署  
 名シ差金會社ニ於テハ其資本ヲ株ニ分割シタルト否トナ問ハス連帶  
 社員又ハ支配人之レニ署名スベシ  
 第四十五條 無名會社ノ許可ニ係ル勅裁書ハ其成立ノ證書ト共ニ同時  
 間中之レヲ揭示ス可シ  
 第四十六條 期限後尙ホ會社ヲ繼續セントスルルハ社員ノ申述ヲ以テ  
 之レヲ證明ス可シ○此申述及ヒ會社成立ノ證書ニ於テ定メタル期限  
 前ニ解社スル諸證書凡テ社員ノ變換又ハ退社凡テ新定ノ規則又ハ條  
 款凡テ會社社名ノ變更ハ第四十二條第四十三條及ヒ第四十四條ニ定  
 メタル手續ニ從フベシ  
 此手續ヲ履行セサルルハ第四十二條末項ノ罰則ヲ適用スベシ  
 第四十七條 前ニ記シタル三種ノ會社ノ外法律ハ尙ホ其分會社ヲ認定  
 ス  
 第四十八條 此會社ハ一個又ハ數個ノ商業上ノ事件ニ關ス其目的手續  
 利益割合及ヒ條件ニ其分者ヲ結約シ依ル

法社會事商

第四十九條 共分會社ハ帳簿及ヒ往復書翰ノ呈示ニ依テ之レヲ證明ス  
 ルヲ得又裁判所ニ於テ證人ヲ許スルハ之レヲ用ヒテ證明スルヲ得  
 第五十條 共分會社ハ他ノ會社ノ爲メニ定メタル法式ニ從ハサルモノ  
 トス  
 第二節 社員間ノ爭訟及ヒ之レヲ裁判スル方法  
 第五十一條 ヨリ第六十三條ニ至ル十三條ハ強迫ノ裁斷ニ關スル千八百  
 五十六年七月十七日ノ法律ヲ以テ之レヲ廢止ス  
 第六十四條 遺財決算人ニアラサル社員及ヒ其寡婦相續人又ハ代權者  
 ニ對スル訴權ハ會社ノ繼續期限ヲ指定スル證書又ハ解社ノ證書ヲ第  
 四十二條第四十三條第四十四條及ヒ第四十六條ニ從ヒ揭示シ及ヒ簿  
 冊ニ記録シ且ツ此手續ヲ履行シタル後右各人ニ對シ起訴ニヨリテ期  
 滿効ヲ中斷スルヲナキニ於テハ會社ノ終期又ハ解敬ノ時ヨリ五年ノ  
 後ニ至リ期滿効ニ依リテ消滅スルモノトス

會社篇

(一)

千八百六十七年七月二十四日布告

第一章 株式差金會社

第壹條

差金會社ノ株又ハ株片ハ其會社ノ資本二十万フランクヲ超過セサル片ハ一株百フランク以下トナスヲ得ス二十万フランクヲ超過スル片ハ五百フランクト爲スヲ得ス○會社ハ其資本ノ全部既ニ申込アリ且ツ各株主ニ於テ其申込ミタル株ノ金額ノ四分ノ一以上ヲ拂込ミタル後ニアラサレハ成立スルヲ得ズ○右株主ノ申込并ニ拂込ミハ會社ノ管理者ニ於テ之レヲ公成證書ニ記載シ以テ之ヲ證明スベシ○此證書ニハ申込人ノ連名帳拂込ノ狀況及ヒ會社ノ定款ヲ私印證書ニ認メタル片ハ其證書ノ正本一冊若シ又其定款公成證書ニ認メ且ツ此公成證書ヲ調製シタル公證人ガ本條申込及ヒ拂込ノ證書ヲ調製スル公證人ト異ナルニ於テハ其公成證書ノ贖本ヲ副フヘシ○會社ノ定款ヲ私印證書ニ認メタル片ハ社員ノ數ノ多少ニ關ラス二冊ノ正本ヲ調製スヘシ而シテ其一冊ハ前項ニ云ヘル如ク株主ノ申込及ヒ金額四分ノ一ノ拂込ヲ證明スル證書ニ副ヘ他ノ一冊ハ會社ニ保存スヘシ

第二條 株又ハ株片ハ金額四分ノ一拂込ミアリタル後ニ於テ賣買スルヲ得

會社 篇

第三條 株又ハ株片ハ株金ノ半額拂込ミアリタル後株主總會ノ決議ニ  
 ヲリ無記名株ト爲スヲ得可キ旨ヲ規定スルヲ得可シ但シ會社成  
 立ノ定款中ニ於テ之レヲ規定スルヲ要ス○株主總會後ニ於テ株ハ尙  
 依然トシテ記名株タルト將タ其無記名株ニ變更セラレタルトハ尙  
 ス株ヲ讓リ渡シタル最初ノ申込人及株金半額ノ拂込前ニ株ヲ讓リ受  
 ケタルモノハ株主總會ノ時ヨリ二年間其株ノ全金額ヲ拂込ムヘキ義  
 務ヲ免カレサルモノトス

第四條 社員中金錢ニアラサル物件ヲ差出シタル片又ハ特別ノ利益ヲ  
 得ヘキ旨ヲ申立ツル片ハ第一回株主總會ニ於テ右差出物件ノ價額又  
 ハ特別利益ノ理由ヲ評定スヘシ○會社ハ再度ノ招集ニ應シテ開キタ  
 ル第二回株主總會ニ於テ差出物件又ハ特別利益ヲ承認シタル後ニア  
 ラサレハ成立セス○第二回株主總會ハ開會前五日以上ニ於テ差出物  
 件及ヒ特別利益ニ關スル報告ヲ印刷ニ付シ之レヲ各株主ニ配付シタ  
 ルニアラサレハ該件ニ關シテ決議ヲ爲スヲ得ス○議事ハ出席株主  
 ノ過半數ノ同意ニ依リ決ス但右過半數ハ株主全數ノ四分ノ一以上ヲ  
 以テ組織シ會社ノ資本ノ四分ノ一以上ヲ代表スルモノタルヲ要ス  
 ○物件ヲ差出シタル社員又ハ特別利益ヲ得可キ旨ヲ申立テタル社員

會社 篇

ハ右議事ニ關シテ決議權ヲ有セザルモノトス○株主總會ニ於テ差出  
 物件又ハ特別利益ヲ承諾スルノ手續ヲ履行セサル片ハ會社ハ何人ニ  
 對シテモ無効ナリトス○株主總會ニ於テ右承認ヲ爲スト雖モ物件差  
 出人又ハ特別利益申立人詐僞アルニ於テハ決議取消ノ訴ヲ起スヲ  
 得可シ○金錢ニアラサル差出物件ノ檢閲ニ關スル本條ノ規則ハ該物  
 件ヲ受領シタル會社ガ單ニ該物件ノ共有者ノミナ以テ組織セラレタ  
 ル片ニ於テ適用セス

第五條 株式差金會社ハ株主三名以上ヲ以テ組織スル所ノ取締役ヲ設  
 置スベシ○取締役ハ會社成立後直ニ株主總會ノ投票ヲ以テ任撰スハ  
 シ取締役任撰以前ニ在リテハ會社營業ヲ始ムルヲ得ズ○取締役ハ  
 會社定款中ニ於テ定メタル期限及ヒ條件ニ從フテ改撰スベシ○第一  
 期取締役ノ任期ハ一年ヲ起過スルヲ得ス

第六條 第一期取締役ハ任撰後直チニ前數條ニ規定シタル規則ノ實行  
 セラレシヤ否ヲ檢査ス可シ

第七條 本法第一第二第三第四及ヒ第五條ノ規則ニ違背シテ成立シタ  
 ル株式差金會社ハ會社ニ利害ヲ有スル諸人ニ對シテ無効ナリトス○  
 社員ハ社外人ニ對シテ前項ノ理由ニ據リ會社ノ無効ヲ主張スルヲ得

會社 篇

第八條 前條ノ理由ニヨリ會社無効トナリタルハ第一期取締役ハ支配人ト共ニ會社ノ無効ニ因リ會社又ハ社外人ノ爲メニ生シタル損害ノ賠償ヲ負擔セシメラル、トアルベシ○第四條ノ規則ニ從ヒ差出ス物件又ハ特別利益ノ評定及ヒ承認ヲ得サリシ社員モ亦同上ノ責任ヲ負擔セシメラル、トアルベシ

第九條 取締役ハ會社管理方及ヒ其管理ノ結果ニ付責任ヲ負擔スルナシ○各取締役ハ普通ノ規則ニ從ヒ職務執行中ニ於テナシタル自個ノ過失ニ付キ責任ヲ負擔スベシ

第十條 取締役ハ會社ノ帳簿金庫書面類及ヒ手形證券類ヲ檢閱スベシ○取締役ハ毎年株主總會ノキ支配人ノ造リタル損益計算書ニ付不規則又ハ誤謬アルヲ發見シタルハ之レヲ摘發シ又支配人ノ發議ニ係ル純益配當ニ關シ反對ノ意見ヲ抱クハ其理由ヲ證明スルカ爲メニ株主總會ニ對シ報告ヲ爲スベシ○株主ノ領受シタル純益ハ損益計算書ナクシテ配當ヲ爲シタルハ又ハ計算書ノ計算ニ違フテ配當ヲ爲シタルハ之レヲ取戻スヲ得ス○純益ヲ取戻スヲ得ハキ場合ニ於テ其取戻權ハ純益配當ノ爲メニ定メタル日ヨリ五年

會社 篇

ヲ以テ期滿免除ヲ得可シ○本法頒布ノ時既ニ起リタル期滿免ニシテ舊法ニヨリ右頒布ノキヨリ超算スルモ尙ホ五年以上ノ期限ヲ經過スルヲ要スルモノハ五年ノ期限ヲ經過シテ完成スルモノトス

第十一條 取締役ハ株主總會ヲ召集スルヲ得可シ又會社ヲ解散ス可シト見込ムルハ之レヲ申立ツルヲ得可シ

第十二條 株主總會ノ時ヨリ少ナクモ十五日前三於テ各株主ハ自身又ハ代理人ヲ以テ會社ニ至リ會社財産取調書損益計算書及ヒ取締役ノ報告書ヲ閱覽スルヲ得可シ

第十三條 此法律第一第二第三條ノ規定ニ違フテ成立シタル會社ニ於テ株券ヲ發行シタルハ五百フランク以上一万フランク以下ノ罰金ヲ科ス○左ノ諸人モ亦同刑ヲ科ス

一 支配人取締役ノ任命前ニ於テ會社ノ營業ヲ初メタル者

二 自己ノ所有ニアラサル株又ハ株片ヲ自己ノ所有ノ如クニ見做シテ總會ニ出席シ其詐詭ニ據リテ不正ノ過半数ヲ得セシメタル者且ツ其所爲ニ因リテ損害ヲ生シタルハ所罰ノ外尙其損害ヲ被リタル會社又ハ社外人ニ對シテ賠償ノ責ニ任スルハ勿論ナリトス

會社篇

三 詐欺ノ使用ヲ爲サン爲メニ株券ヲ引渡シタルモノ  
前二項ノ場合ニ於テハ罰金ノ外尙十五日以上六月以下ノ禁錮ヲ科  
スルコトヲ得

第十四條 此法律第一第二第三條ニ定メタル價額及ヒ法式ニ違ヒタル  
株又ハ株ノ片札又ハ第二條ニ從フテ株金ノ四分ノ一ノ拂込ヲ了セザ  
ル株又ハ株片ヲ賣買シタル者ハ五百フラン以上一萬フランク以下ノ  
罰金ヲ科ス○其他此賣買ニ關係シタルモノ及ヒ此株ノ價値アルコトヲ  
公告シタルモノモ亦同刑ヲ科ス

第十五條 左ノ諸人ハ刑法第四百五條ニ定メタル刑ヲ科ス且ツ其所爲  
騙取罪ヲ組成スルニ於テハ別ニ尙該條ヲ適用スルコトヲ得

- 一 偽リテ株主申込又ハ株金拂込ヲナシ或ハ惡意ヲ以テ實際アテサ  
ル申込又ハ拂込ノ公告ヲ爲シ又ハ其他詐欺ノ所爲ヲ以テ申込又  
ハ拂込ミチササシメ又ハ爲サシメントシタル者
- 二 申込又ハ拂込ヲ勸諭センカ爲メニ惡意ヲ以テ會社ニ關係ナキ人  
名ヲ會社ニ入社シ或ハ入社スヘシト公告シタル者
- 三 支配人損益計算書アラサレ奇貨トシ又ハ詐欺ノ計算書ヲ作爲  
シ以テ株主ニ虛偽ノ純益ヲ配當シタル者○取締役ノ管理者ノ爲

會社篇

第十六條 刑法第四百六十三條ハ前三條ニ規定シタル所爲ニ適用スル  
キモノトス

第十七條 會社資本ノ二十分ノ一以上ヲ代表スル株主相合スルニ於テ  
ハ共同利益ノ名義ヲ以テ一人又ハ數人ノ代理人ヲ任シ之レニ依リテ  
支配人又ハ取締役ニ對シ訴訟ノ原告又ハ被告トナルコトヲ得可シ但シ  
其費用ハ該株主ニ於テ之レヲ負擔ス可シ且ツ各株主ハ右共同ノ訴訟  
ニ關ラス各自自己ノ名義ヲ用ヒテ訴訟ヲ起スコトヲ得ヘシ

第十八條 千八百五十六年七月十七日ノ法律以前ニ成立シタル會社ニ  
シテ此法律第十五條ニ適從セサルモノハ六ヶ月間ニ於テ前數條ノ規  
則ニ從ヒ取締役ヲ任命スヘシ○右期限内ニ於テ取締役ヲ任命セサル  
於テハ其會社ノ各株主ハ會社ノ解散ヲ申出ツルコトヲ得ベシ

第十九條 此法律以前ニ成立シタル株式差金會社ニシテ其規則中ニ政  
府ノ許可ヲ得テ無名會社ニ變スルコトヲ得ヘシト定メタル者ハ其規則  
中ニ定メタル條件ニ從ヒ此法律第三章ノ明文ニ據リテ無名會社トナ  
ルコトヲ得可シ

第廿條 千八百五十六年七月十七日ノ法律ハ之レヲ廢止ス

會社篇

第二章 無名會社

第十一條 無名會社ハ今後政府ノ許可ナクシテ成立スルヲ得可シ無名會社ノ定款ハ其社員ノ數ノ多少ニ關ラス之レヲ私印證書ニ調製スルヲ得可シ但正本二冊ヲ造ル可シ○無名會社ハ商法第廿九第三十三第二第三十三第三十四及ヒ第三十六條ノ規則及ヒ此章ニ定メタル規則ニ適從スルヲ要ス

第十二條 無名會社ハ一人又ハ數人ノ支配人ヲ以テ之レヲ支配ス其支配人ハ社員中ヨリ選任シ其在任ハ有期ニシテ社員之レヲ廢黜スルヲ得可ク而シテ給料ハ之レヲ附與シ又ハ附與セサルヲ得可シ○支配人數人アルキハ其中ノ一人ヲ撰ンテ指揮長トナスヲ得可シ又會社ノ定款ニ於テ之レヲ許スニ於テハ社外ノ人ヲ撰ンテ支配人ノ代理者トナスヲ得可シ此場合ニ於テハ會社ノ支配人ハ其自ラ撰ミタル代理者ノ所爲ニ就キ責任ヲ負擔スベシ

第十三條 無各會社ハ社員七名ニ滿タサレハ成立スルヲ得ス第十四條 此法律第一第二第三及ヒ第四條ノ規則ハ無名會社ニモ亦之レヲ適用ス○此法律第一條ニ於テ支配人ノ負擔ニ歸シタル株主申込及ヒ株金拂込ノ宣告ハ無名會社ニ於テハ發企者之レヲ負擔スヘシ○

會社篇

該宣告ハ證據書類相添ヘ第二回株主總會ヲ檢閱ニ附スベシ第十五條 何レノ場合ヲ問ハス株主申込及ヒ株金四分ノ一以上貨幣ニテ拂込ミアリタルヲ證明スル證書ヲ調製シタル後發起者ノ注意ニ依リテ株主總會ヲ召集スベシ株主總會ニ於テハ第一期支配人ヲ撰任ス

又又第一期ノ爲メニ此法律第三十二條ニ定メタル取締役ヲ撰任ス○右支配人ノ任期ハ六年ヲ超過スルヲ得ス反對ノ規則アラサルハ再撰スルヲ得可シ○但シ會社ノ定款ニ於テ第一期支配人ヲ指定シ株主總會ノ認可ヲ要セスト明示スルヲ得ベシ此場合ニ於テハ其任期ハ三年ヲ超過スルヲ得ス○支配人及ヒ取締役ガ會議ニ出席シテ其撰任ヲ承諾シタルトハ之レヲ會議始末書ニ記載シテ證明スヘシ○會社ハ右撰任ノ承諾アリタルキヨリ成立ス

第十六條 支配人ハ會社規則ニ定メタル株數ノ所有者タルヲ要ス○此株ハ之レヲ一纏メニシテ凡テ管理ノ所爲ヨリ生スル損害ノ賠償ノ抵當ニ充ツ其一人ノ支配人ノ所爲ニ據リテ損害ヲ生シタルハト雖亦同シ○此株ハ記名株タルヘク又讓與スベカラズ因テ不可讓與ノ旨ヲ印記シ會社ノ金庫ニ保管ス可シ

第十七條 每年會社ノ定款ニ定メタル期限ニ於テ一回以上ノ株主總會



會社篇

未開クベシ且該規則ニ於テ總會ニ出席スル爲メ所有者又ハ代理者ノ名義ヲ以テ所持スルヲ要スル株數ヲ定ムヘシ又各株主ニ屬スル投票權ノ數ハ其所持ノ株數ニ從フテ之レヲ定ムベシ○但差出物ノ價額ヲ評定スル爲メ第一期支配人ヲ撰任スル爲メ及ヒ第廿四條第二項ニ從フテ會社發起者ノ宣告ノ眞否ヲ撥閱スル爲メニ召集シタル株主總會ニ於テハ凡テノ株主其所持ノ株數幾何ナルヲ問ハス皆會議ニ參與スルヲ得又其投票權ハ會社定款ニ於テ之レヲ定ムベシ但一人ニテ十以上ノ投票權ヲ有スルヲ得ス

第廿八條 凡テ株主總會ノ議事ハ投票權ノ過半數ヲ以テ之レヲ決ス○株主ノ出席ハ之レヲ帳簿ニ記載ス可シ帳簿ニハ株主ノ姓名住所及ヒ各自所持ノ株數ヲ記載スベシ○此帳簿ハ總會事務局ニ於テ之レヲ證明シタル後會社ニ保管シ何人ヲ問ハス其披見ヲ請求スルハ之レニ示スベシ

第廿九條 下ノ二條ニ於テ指示シタル場合ノ外ニ於テ會議スル爲メ召集シタル株主總會ハ會社資本ノ四分ノ一以上ヲ代表スル株主ノ出席シテ之レヲ組織スルヲ要ス若シ出席株主右員數ニ充タサルハ會社規則ニ定メタル手續及ヒ期限ニ於テ更ニ開會ス可シ再會ニ於テハ出席

會社篇

株主ノ代表スル資本幾何タルヲ問ハス會議ノ効アリトス

第三十條 差出物ノ價格ヲ評定シ第一期支配人ヲ撰任シ第廿四條第二項ノ規則ニ從ヒテ發起者ノ宣告ノ眞否ヲ檢閲スル爲メ召集シタル株主總會ハ會社資本ノ二分ノ一以上ヲ代表スル株主出席スルニアラサレハ開會スルヲ得ス○差出物ノ價額評定ノ爲メ召集シタル株主總會ニ於テ會社資本ノ二分ノ一以上ヲ代表スル株主ノ出席ヲ要スル右會社資本ハ評定ヲ要セサル差出物ノミヲ以テ組織ス○若シ會社資本ノ二分ノ一以上ヲ代表スル株主出席セサルハ其會議ニ於テハ假決議ノ外之レヲナスヲ得ス此場合ニ於テハ更ニ株主總會ヲ召集スベシ開會前一月以上ニ於テ公告ヲ受クル爲メ指定セラレタル一ノ新聞紙ニ八日間ヲ隔テ、貳回ノ報告ヲ掲載シ第一回株主總會ニ於テ爲シタル假決議ヲ通知スベシ此假決議ハ再會議ニ於テ會社資本ノ五分ノ一以上ヲ代表スル株主出席シテ之レヲ可決シタルハ確定ノ議決トナルベシ

第卅一條 會社定款ノ改正又ハ繼續年限延期ノ發議若クハ期限前解社ノ發議ヲ議定スル爲メ集リタル總會ハ會社資本ノ二分ノ一以上ヲ代表スル株主出席シテ之レヲ組織スルニアラサレハ正當ニ成立シ及ヒ

會社 篇

有効的ニ決議スルヲ得ス

第卅二條 毎年惣會ニ於テハ株主又ハ社外人中ヨリ一人又ハ數人ノ委員ヲ指定ス可シ右委員ハ會社ノ狀況及ヒ支配人ノ差出ス財産表及ヒ計算書ニ付次年ノ惣會ニ報告ヲ爲スノ職務ヲ有ス○委員ノ報告ナクシテ財産表及ヒ計算書ヲ可決スルキハ其決議ハ無効ナリトス○惣會ニ於テ委員ヲ撰任セサルハ又ハ撰任セラレタル委員ノ一人又ハ數人事故アリテ撰任ヲ承諾スルヲ得ス又ハ之レヲ拒絕スルハ利害ヲ有スル者ノ請求ニ依リ會社所在ノ地ノ商事裁判所長ニ於テ支配人ノ陳述ヲ聽ク爲メ之レヲ召喚シタル上該委員ヲ撰任シ又ハ改任スベシ

第三十三條 委員ニ於テ會社ノ利益ナリト思考スルハ會社定款ニ定メタル惣會開會ノ期限前三週間以上ニ於テ帳簿ヲ披見シ及ヒ社業ヲ檢閱スルヲ得○又至急ヲ要スル場合ニ於テハ何時ニテモ惣會ヲ召集スルヲ得

第卅四條 無名會社ハ一周毎ニ貸方借方ノ現狀ヲ畧示スル一表ヲ造ルヘシ○此表ハ委員ニ之レヲ引渡ス可シ○又毎年一回商法第九條ニ從ヒ動産不動産ノ手形證券類ノ在高及ヒ會社ノ貸方及借方ヲ指示スル調書ヲ造ル可シ○右調書并ニ財産表及ヒ損益計算書ハ惣會開會前十

會社 篇

四日以上ニ於テ之レヲ委員ニ引渡ス可シ且ツ右書類ハ惣會ノ片之ヲ呈出ス可シ

第卅五條 各株主ハ惣會開會前十五日以上ニ於テ會社ニ至リ右調書及ヒ株主人名表ヲ披見シ該調書ノ大体ヲ指示シタル表ノ寫及ヒ委員報告書ノ寫ヲ請求スルヲ得可シ

第卅六條 毎年純益金ノ内其二十分ノ一ヲ積立テ、準備金ト爲スヘシ○右純益金ノ積立ハ準備金額會社資本ノ十分ノ一ニ達シタルヲ待テ之レヲ停止スルヲ得

第卅七條 會社資本ノ四分ノ三以上ヲ損失シタル場合ニ於テハ支配人ハ株主惣會ヲ召集シ會社ヲ解散ス可キヤヲ問フ可シ○其解散ヲ決議シタルト否トテ問ハス其決議ハ必ス之レヲ公告スベシ○支配人ニ於テ惣會ヲ召集セサルハ及ヒ出席員少數ニシテ正當ニ開會スルヲ得サルハ利害ヲ有スルモノハ裁判所ニ對シ會社ノ解散ヲ請求スルヲ得可シ

第卅八條 社員ノ數七人以下ニ減シタルハヨリ一年ヲ經過スルハ凡テ利害ヲ有スル者ノ請求ニ依リ解散ヲ言渡ス可シ得ベシ

第卅九條 第十七條ハ無名會社ニモ亦之レヲ適用ス

會社篇

第四十條 支配人ハ會社ノ企業又ハ取引ニ付自ラ直接又ハ間接ノ利益ヲ受クルヲ得ス但シ株主總會ニ於テ之レヲ許可シタルモハ此限ニ在ラス○前項ニ依リ總會ノ許可ヲ得テ爲シタル取引及ヒ營業ハ其實行ノ計算書ヲ製シ之レヲ毎年ノ株主總會ニ差出スベシ

第四十一條 第廿二第廿三第廿四條及第廿五條ノ規定ニ從ハサル無名會社ハ會社ニ關係ヲ有スル諸人ニ對シテ無効ナリトス

第四十二條 前條ノ規則ニ從ヒ裁判所ニ於テ會社又ハ會社ノ所爲及ヒ決議ヲ無効トシタルモ其無効ノ責ヲ負担ス可キ發起者及ヒ無効ヲ言渡サレタルモ在職ノ支配人ハ社外人ニ對シテ連帶ノ責任ヲ有ス且ツ株主モ亦之レカ爲メニ發起者及ヒ支配人ニ對スル權利ヲ失フナシ○第廿四條ニ從フテ差出物件又ハ特別利益ノ檢閲及ヒ可決ヲ得ザリシ社員ニ對シテモ亦連帶責任ヲ言渡ストヲ得

第四十三條 委員ノ會社ニ對スル責任ノ區域及ヒ結果ハ一般ノ代理規則ニ從フ

第四十四條 支配人此法律ノ規則ヲ犯シタルモ又ハ其管理中ニ過失ノ所爲アルモ就中虛偽ノ純利ヲ配當シ又ハ配當スルヲ見テ之レヲ止メザリシモハ普通ノ規則ニ從ヒ會社又ハ社外人ニ對シ場合ニ依リテ各

會社篇

自ニ責任ヲ負担シ又ハ連帶ヲ以テ責任ヲ負担ス

第四十五條 此法律第十三第十四第十五及第十六條ノ規則ハ既ニ成立スルモノト此法律頒布後ニ成立スルモノトノ區別ナク凡テ無名會社ニ適用ス○會社財産調書ナク又ハ詐僞ノ財産調書ヲ調製シテ虛偽ノ純益ヲ配當シタル支配人ハ同條ノ場合ニ於テ差金會社ノ支配人ヲ罰スル第十五條第三項ノ刑ヲ科ス○第十條末段三項ニ定メタル規則モ亦無名會社ニ適用ス

第四十六條 現今存立スル無名會社ハ其期限ノ終ル迄舊法ノ規則ニ從フヘシ○但シ政府ノ許可ヲ得及ヒ社則改正ノ手續ヲ履行シタル上此法律ニ從フ無名會社トナルヲ得可シ

第四十七條 有限責任會社ハ社則改正ノ條件ヲ遵奉シテ此法律ニ從フ無名會社ニ變スルヲ得可シ○商法第卅一第三十七及第四十條并ニ千八百六十三年五月廿三日頒布ノ有限責任會社條例ハ之レヲ廢止ス

第三章 不定資本會社ニ特別ノ規則

第四十八條 何レノ會社タルモ問ハス其定款中ニ於テ社員ノ遞次拂込ニ依リ又ハ新社員ノ入社ニ依リ其資本ヲ遞次増加スルヲ及ヒ既ニ騰出シタル資本ノ一部又ハ全部ノ取戻ニ依リテ其資本ヲ減少スルヲ

會社篇

定ムルヲ得可シ○定款中ニ前項ノ約束ヲ記載スル會社ハ其會社ノ組織ニ從フテ其會社ニ固有ノ一般ノ規則ニ從フ外尙下ノ數條ニ定メタル規則ニ從フ可シ

第四十九條 會社定款ニ於テ定ムル資本ノ額ハ二十万フランクニ超過スルヲ得ス○毎年ノ株主總會ニ於テ資本増加ノ決議ヲ爲ストテ得但シ一回ノ増額二十万フランクニ超過スルヲ得ス

第五十條 株及ヒ株片ハ額面ノ金員悉皆拂込ミアリタル後ト雖モ記名株タルヲ要ス○株ノ金額ハ五十万フランク以下タルヲ得ス○株ハ會社ノ成立確定シタル後ニアラサレハ賣買スルヲ得ス○賣買ハ會社ノ帳簿ニ記載シテ之レヲ證スルノ手續ニ據ラサレハ之レヲ行フヲ得ス定款中ニ於テ株ノ移轉ヲ拒ムノ權ヲ支配人又ハ株主總會ニ附與スルヲ得

第五十一條 定款中ニ於テ第四十八條ニ於テ許可セラレタル株金取戻ノ法ニ據ルモ會社ノ資本ハ其額以下ニ減スルヲ得サル旨ヲ規定スルヲ要ス○此額ハ會社資本ノ十分ノ一ニ下ルヲ得ス○會社ノ成立ハ資本十分ノ一拂込アリタル後ニアラサレハ確定セス

第五十二條 各社員ハ相當ト思惟シタルモ退社スルヲ得可シ但シ反

會社篇

對ノ約束アルモ此限ニアラス且ツ前條第一項ノ規則ニ違フヲ得ス○定款中ニ於テ株主總會ハ定款改正ノ必要スル過半数ヲ以テ社員中ノ一人又ハ數員ヲ退社セシムルヲ決議スルノ權アルヲ定ムルヲ得可シ○自己ノ意見ニヨリ又ハ株主總會ノ決議ニヨリ退社シタル社員ハ五年間他ノ社員及ヒ社外人ニ對シテ其退社ノ存在シタル凡テノ義務ヲ負擔ス可シ

第五十三條 會社ハ其何種ノ會社タルヲ問ハス裁判所ニ於テハ其支配人ヲ以テ有効的ニ代表セラルベシ

第五十四條 會社ハ一人ノ社員ノ死去退社禁治產分散商人非ニ據リテ解散スルヲナシ此等ノ場合ニ於テ會社ハ當然ニ殘余ノ社員ヲ以テ之レヲ繼續ス可シ

第四章 會社諸証書ノ公告ニ關スル規則

第五十五條 凡テ商業會社ハ其成立後一ケ月中ニ於テ其成立ノ規則ヲ私印證書ニ認メタルモ其證書ノ正本一通又公成證書ニ認メタルモハ其謄本一通ヲ會社成立ノ地ノ治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ納ム可シ○株式差金會社及ヒ無名會社成立ノ證書ニハ尙左ノ諸書ヲ副フヘシ

會社篇

一 株主申込ミ及ヒ株金四分一拂込ヲ證明スル公成證書ノ謄本一通

二 第四條及ヒ第廿四條ニ定メタル場合ニ於テ株主惣會ヲナシタル決議ノ寫シ(眞正ノ寫タルヲ證明ス可シ)○無名會社於テハ尙其成立ノ證書ニ株主申込人ノ姓名簿(眞正ノ寫タルヲ證明スヘシ)ヲ添付ス可シ其姓名簿ニハ各申込人ノ姓名身分住所及ヒ株數ヲ記載ス可シ

第五十六條 前條同様ノ期限内(一ヶ月)ニ行テ會社成立證書及ヒ添付諸書ノ拔書ヲ公告ヲ受ケル爲メ指定セラレタル一ノ新聞紙ニ掲載スベシ○右新聞紙掲載ノ下ハ之レヲ掲載シタル新聞紙一葉ニ印刷者ノ覆印ヲ取り戸長ノ奥印ヲ受ケ發兌年月日ヨリ三ヶ月内ニ登記シテ之レヲ證明ス可シ○前條及ヒ本條ノ手續ヲ履行セサルハ會社ハ利害ヲ有スルモノニ對シテ無効タル可シ但シ社員ハ社外人ニ對シテ右手續ヲ不履行ヲ理由トシ會社ノ無効ヲ主張スルヲ得ス

第五十七條 新聞紙ニ掲載スル拔書中ニハ左ノ諸件ヲ記載スベシ  
 株主及ヒ金主外ノ社員ノ姓名社名又ハ社号及ヒ會社ノ居所會社ノ爲メニ管理支配及ヒ調印スル權アル社員ノ人名會社資本ノ額及ヒ株主又ハ金主ノ拂込ミタル金額又ハ拂込ムベキ金額會社開始ノ期限解散

ノ期限及ヒ治安裁判所及商事裁判所ノ書記局ニ書類ヲ納メタル年月日

會社篇

第五十八條 拔書ニハ會社ノ台名會社タルヲ又ハ單純ノ差金會社タルヲ又ハ株式差金會社タルヲ又ハ無名會社タルヲ又ハ不定資本會社タルヲ記載ス可シ○會社無名會社タル場合ニ於テハ貨幣及ヒ其他ノ物品ニテ會社資本ノ額及ヒ準備金ヲ積立ル爲メ純益金中ヨリ引去ルヘキ金額ヲ拔書ニ記載スヘシ○會社不定資本會社タル場合ニ於テハ會社ノ資本ヲ減シテ其以下ニ下ルヲ得サル額ヲ記載スヘシ

第五十九條 會社數郡ニ商店ヲ置クハ第五十五條ノ書類納メ方及ヒ第五十六條ノ公告ハ商店ノアル各郡ニ於テ之レヲ爲ス可シ○數區ニ分カレタル都府ニ於テハ數區中重ナル商店アル區ノ治安裁判所ノ書記局ニノミ書類ヲ納ムベシ

第六十條 書類ノ拔書ハ公正證書ナルハ公證人之レニ記名シ私印證書ナルハ合名會社ニ於テハ社員之レニ記名シ差金會社及ヒ無名會社ニ於テハ支配人之レニ記名ス可シ

第六十一條 會社定款改正會社繼續年限ノ延期期限前ノ解社及ヒ解社後決算ノ方法ニ關スル書類及ヒ決議社員ヲ變換又ハ退社及ヒ社名ヲ

會社篇

變改ハ第五十五條及ヒ第五十六條ノ手續及ヒ罰則ニ從テ可シ○第十  
九條第三十七條第四十六條第四十七條及ヒ第四十九條ノ場合ニ於テ  
アリタル決議モ亦第五十五條及ヒ第五十六條ノ規則ニ照準ス可シ  
第六十二條 第四十八條ノ規則ニ從テ會社資本ノ増減シタルト又ハ  
第五十二條ニ從テ支配人ニアラサル社員カ退社シタルトテ證明ス  
ル書類ハ書記局ヘ納メ方及ヒ新聞紙ニ公告ノ手續ヲ履行スルトテ要  
セス  
第六十三條 株式差金會社又ハ無名會社ニ於テハ何人ヲ問ハス治安裁  
判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ納メタル書類ヲ披見シ且ツ費用ヲ拂  
フニ於テハ書記又ハ正本ヲ保管スル公證人ヲシテ其謄本又ハ拔書ヲ  
引渡サシムルトテ得可シ○又何人ヲ問ハス會社ニ至リ若干ノ金額ヲ  
拂フテ社則ノ寫眞正ナルトテ證明シタルモノヲ引受ケントテ請求ス  
ルトテ得可シ但シ其金額ハ二十フランク以上タルトテ得ス○書記局  
ヘ納メタル書類ハ社局ノ見易キ所ニ揭示スベシ  
第六十四條 無名會社又ハ株式差金會社ヨリ發スル證書判取書報告公  
告其他印刷ニ付シ又ハ石版摺ニ付スル書類ニハ社号ヲ記載シ社号ノ  
下又ハ上ニ無名會社又ハ株式差金會社ノ文字ヲ明記シ且ツ會社ノ實

會社篇

本ヲ指示スベシ○若シ會社第四十八條ノ權利ヲ使用シタルキハ不定  
資本ノ四字ヲ加記シテ之レヲ證ス可シ○以上ノ規則ニ背反スルキハ  
五十フランク以上一千フランク以下ノ罰金ヲ科ス  
第六十五條 商法第四十二條第四十四條第四十五及ヒ第四十六條ノ規則ハ  
之レヲ廢止ス

第五章 トンチン及ヒ保險會社

第六十六條 トンチンノ種類ノ結社及ヒ共濟生命保險會社又ハ保險料  
ヲ定メタル生命保險會社ハ政府ノ認可及ヒ監督ヲ受クベシ○其他ノ  
保險會社ハ認可ヲ受ケスシテ成立スルトテ得可シ此會社ノ成立ニ必  
要ナル條件ハ敕令ヲ以テ之レヲ定ム  
第六十七條 前條第二項ニ記シタル保險會社ニシテ現今存在スル者ハ  
其定款改正ノ手續及ヒ條件ヲ履行スルニ於テハ政府ノ許可ナクシテ  
敕令ヲ以テ定メラルベキ規則ニ從フ會社トナルトテ得ベシ

現行佛國諸種會社法終

明治二十五年正月十八日 山縣啓

明治二十年五月十六日  
明治二十年五月廿八日  
全 年六月五日

出版御届  
改題御届  
刊行

定價金拾五錢

三重縣平民

譯述兼  
出版人

福永

惟精

大阪府下北區竜田町  
四十六番地寄留

梶田喜藏

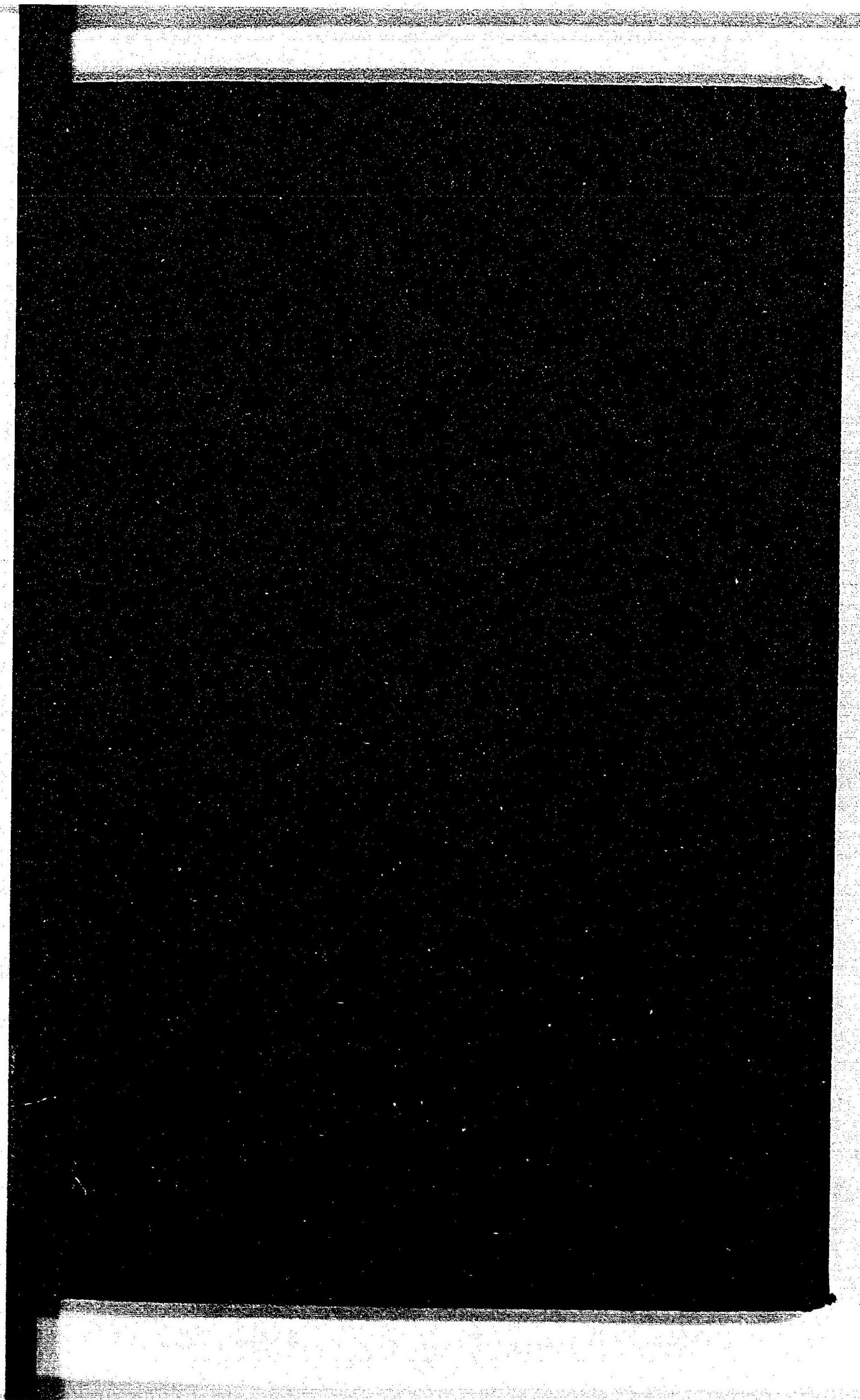
大阪東區南本町四丁目

吉岡平助

大阪東區備後町四丁目

26
172







035422-000-6

26-172

仏国諸種会社法大全

福永 惟精/訳

M20

BBO-0618



